

『われらをめぐる海』レイチェル・カースン（日下 実男訳）、早川書房、2000 年（07/5/28）

私はもともと自然が好きでしたが、山育ちの山好きでした。海には何かオソロシイものを感じ、苦手意識がありました。しかし、この本を読んで海がとても自分にとって親しいもののように感じ、海という存在が好きになったのです！ いま、ここで目をつぶっても、地球の裏側で海がうねり続けていること、巨大なクジラが深海を泳いでいること、私自身を含めて地球上の生命を育み続けていること、そういうことを実感として感じられるようになったのです。自分をとりまく世界に対してどういう気持ちで向えるか、それがとても大切なことだということも教えてくれました。ぜんぜん「ガバナンス」じゃないですね。でも、本質的にはつながっているような気がするのです。（ヨシダ）